



Nihon Clinic
日本クリニック
PRESENTS

健康ニュースレター

MONTHLY NEWS LETTER for HEALTH



今月のテーマはこちら

乳がん検診を効果的に受けましょう

2017

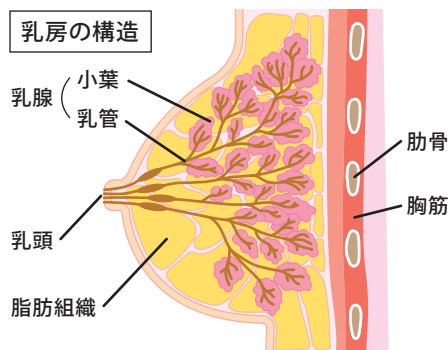


文責：ミハナカ裕美、四方英樹 M.D.

乳がんは、がんのなかでも日本女性がかかる割合（罹患率）が増加の一途を辿っています。乳がん検診での画像検査と言えばマンモグラフィが一般的で、現段階で検診での有効性が証明されているのはマンモグラフィだけとなっています。しかし、マンモグラフィの検査をしても、病変が見つかりやすい人とそうでない人がいるのをご存知でしょうか。今回は、マンモグラフィと超音波検査の違いについてご案内いたします。

日本人女性の乳腺の特徴

乳房の内部は、主に脂肪と乳腺組織からできています。その乳腺組織が多く存在している状態を「乳腺濃度が高い」といいます。若いうちは乳腺が豊富ですが、年齢を重ねるにつれて、乳腺は退縮して脂肪が増加していきます。40歳代の女性は乳腺組織の比率が高いことが分かっています。また、欧米の女性と比べると、日本人を含むアジアの女性では乳腺の濃度の比率が高いと言われています。



乳がんになる確率が高い人

乳がんは乳腺と乳管に発生する悪性腫瘍で、その発症には女性ホルモンが深く関わっています。乳がんになる確率が高いのは、乳がんの家族歴がある人、乳腺疾患の既往歴がある人、初経が早かった人、未婚、未出産、肥満、女性ホルモンを常用している人と言われています。つまり、乳がんには遺伝的な要素が強く、またエストロゲン（女性ホルモン）分泌に長くさらされることが発症に関与しています。

マンモグラフィ検査

マンモグラフィは、乳房を挟みながら圧迫し、上下、左右方向から1枚ずつ撮影します。脂肪組織は黒く、乳腺組織は白く写し出されます。触診では分からない小さいしこり、腫瘤を形成しない乳がんや石灰化を映し出すことができるため、乳がんの早期発見に威力を発揮します。ただし、乳腺組織が密な女性ではX線の画像が白く映し出されるため、しこりを見つけにくいことがあります。



超音波検査

超音波検査は、乳房に超音波をあて乳房内部を写します。マンモグラフィのように石灰化を写すこ

とには適していませんが、乳房の内部の構造を観察しながら、触診では検出できない小さな腫瘍や病変の広がりを見つけることができます。痛みはなく、X線を使わないので安心して受けることのできる検査です。



どちらの検査を受けるべき？

現在、日本では乳がん検診の在り方について検討がなされています。先にも述べましたように、検診での有効性が証明されているのはマンモグラフィだけとなっていますが、近年、アメリカでは、乳腺濃度の重要性が認識されており超音波の使用が増えています。以上の事から日本クリニックでは、日本人女性の乳房の特徴を踏まえ、以下の乳がん検査をお勧めしています。

- 40歳未満の方… 乳房超音波検査
- 40歳代の方… 毎年交互にマンモグラフィと乳房超音波検査
- 50歳以降の方… 年に一度マンモグラフィ

必ずしも上記の限りではありませんので、自分の乳房の状態に合った検査方法で検査することが望ましいと言えます。不明な点がございましたら日本クリニックまでお問い合わせください。日本クリニックでは、ご自身、大切なご家族のために皆様健康やかに過ごされますようサポートさせていただきます。

Nihon Clinic
日本クリニック

CHICAGO

SAN DIEGO

2010 S. Arlington Heights Rd.
Suite 101 Arlington Heights, IL 60005

予約 847.952.8910

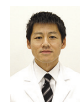
小児科 847.640.5437

内科 847.758.8080

カイロ科 847.956.3250

✉ chicago@nihonclinic.com

- 一般外来診療・内科・小児科・青年科・整形外科・カイロ科
- 人間ドック（ほぼ全検査項目を当院内で受診できます）
- 脳ドック（頭部 MRI、頭部 MRA、頸動脈エコー）
- 各種検査、手術、入院の手配
- 胃内視鏡検査
- 検診・予防接種（乳幼児・小中高大学 / 日米用報告書作成）
- マッサージ、エステ
- カウンセリング



四方, M.D.
内科



松本, M.D., Ph.D.
家庭医学科 /
小児科・内科



川又, D.C.
カイロプラティック科



黄, M.D.
整形外科



栗原, LCSW
心理カウンセリング



高崎, L.M.T.
マッサージ

www.nihonclinic.com